

モンゴルキャンプ

2016. 8. 1～7

日本モンゴル障がい児家族交流キャンプ報告書



日本モンゴル障がい児交流会

日本サーバス近畿支部

目次

主催者挨拶・・・・・・・・・・	日本モンゴル障がい児交流会代表 日本サーバス近畿支部長 H.T	P2
	モンゴル側チームリーダー H.S	P3
お祝いの言葉・・・・・・・・・・	花園大学 モンゴル国立教育大学名誉博士 H.K	P4
	元大阪府立茨木養護学校長 K.R	P5
	日本サーバス会長 O.T	P6
キャンプでの日々・・・・・・・・・・	キャンプ参加者	P7
参加者の感想・・・・・・・・・・	キャンプ参加者	P14
終わりに・・・・・・・・・・	キャンプ参加者	P24



ワークショップで作った共同作品

樹の根のように

日本モンゴル障がい児交流会代表

日本サーバス近畿支部長 H.T

昨年モンゴルの方よりの「日本の障がい児教育に学びたい」との要請を受けて、近畿にて障がい児教育を研修して頂きました。その後もモンゴルとの協力関係を続けていきたいと、研修に協力した者で日本モンゴル障がい児交流会を作りました。今夏、日本側、障がい児家族 10 名(1 家族 2 名直前キャンセル)を含む交流会のメンバー18 名、モンゴル側 18 名(当初予定の人数 キャンプ中入れ替わりが度々あったので、実際の人数は把握困難)でモンゴルにて、交流キャンプを行いました。



このキャンプが実現したのは、何よりもモンゴルの方が少しでも良い交流キャンプをと、心を込めて、知恵を傾けて準備して下さったからです。モンゴルの方の温かい、大きな心、実行力に感謝の他、ありません。

同時に感謝したいのは、昨年の研修に資金面で協力をして下さった多くの人たちです。目標以上のご協力があり、このキャンプはそれを資金として実現しました。

又、何の馴染みもない、名前の知られていない主催者を信頼して、キャンプに参加して下さった大阪 LD 親の会「おたふく会」の皆様にも、心から感謝します。

キャンプを準備する上でも、多くの方のご協力がありました。

モンゴルへの航空券購入には日本モンゴル文化経済交流会会長の Sa 様が力を貸して下さいました。参加者が揃いの T シャツを作りたいと言ったら、昨年の研修にご協力頂き、交流会の会員になって下さったデザイナーの Na さんがデザインを引き受け、ご自身の会社で素敵な T シャツを作して下さいました。6 月に行なったキャンプ参加者激励会では、花園大学の先生で、モンゴル大学にてもモンゴルの障がい児教育に多くの貢献をされ、モンゴル国立教育大学名誉博士を授与されていらっしゃる Ha 先生が、モンゴルについて話をして下さいました。そのおかげで、キャンプに参加する者は、モンゴルに対して具体的なイメージを持つことが出来ました。

このように多くの皆様が、樹の根のように色んなご協力を広げて下さいました。そのおかげで、キャンプに参加した者は全てモンゴルでのキャンプを思いきり楽しむことが出来ました。心から感謝いたします。

キャンプ参加者は「今後もモンゴルとの交流を続けていきたい」と思っています。今までには、皆さんに多くの根を伸ばして頂きましたが、今度はキャンプ参加者の皆さんと、どんな根が伸ばせるかを考えて、私たちも創意工夫を重ね、太い根、ひげ根、色んな根を皆で伸ばしていきたいと思っています。

皆様、今後とも温かく見守って下さいますように、どうぞ宜しくお願いいたします。

Welcome to Mongolia

モンゴル側チームリーダー H.S

Dear everyone

Thank for visiting Mongolia on the Camp operation.

We (myself and Mr. Ms Hi san and So san) met 3 years ago, then they visited 2 years ago in Mongolia, a team from Mongolia visited in Japan 2015.



It is great you are coming in August in Mongolia as a continuation of the previous visits. I believe that we, all trying to make each other happy, especially trying to make children happy.

Mongolia is a very unique country considering its history as

- a biggest Empire in the world about 800 years ago
- a new country in last 25 years after the socialist system collapsed

We are facing difficulties in the transition period from socialist /eastern/ to a free market economy /western/ in last 25 years. However, we opened our door to the world in last 2 decades. Japan is one of the countries who have been making a good friendship in both political and daily life.

Many people get familiar with Japanese daily life, culture, system etc. Children are studying Japanese language and willing to study Japan. Mongolian accept Japanese as a good friend who helps in difficult situation.

I also believe that we are learning from each other finding out the differences in our life, culture, nature, system etc. However, human being is same in terms of loving each other, making happy and unhappy each other.

It is great all members in this Camp project are trying to understand each other, trying to make children happy, children are same everywhere, they are very very and very nice making all the world happy.

We are waiting for you although you are going to stay in the dormitory and Ger camp where there is no hot water and shower.

Not everything is clean and you might have heavy food, etc. However, let's try to so something good for kids and our friends too.

Please you are very welcome in Mongolia.

お祝いの言葉

花園大学 H.K

この度は「日本モンゴル障がい児交流会」が企画された「モンゴルキャンプ」が、まさにモンゴルの夏8月初めに実施され、成功裏に成果を収められたことをお祝い申し上げます。

私とモンゴルとの関わりは、2005年にJICAのシニア海外ボランティアとしてモンゴル国立教育大学に赴任したことです。当時、モンゴルにおいて特別支援教育は制度的・法的に開始はされていたものの、実際にどのように内容を整備していくかを模索していたところでした。学長からもモンゴルで教師になる人に「障害って何ですか」ということを学習して地方の教師になってほしいと願っていると言われました。その要望にこたえるために、障害の理解や指導法がわかる簡単なテキストを作りました。私は障害のある子どもの教育に対する熱いものを感じました。

昨年、京都市教育員会から「日本サーバス近畿支部」の方が、モンゴルの教師・親が京都市で研修したいので同行してほしいとの連絡がありました。その時に支部長のHi様とお出会いしました。また通訳のHgさんともお出会いしました。Hgさんはモンゴル教育大学で行った私の講義を受けておられたということをお聞きしまして、何か縁を感じました。その後、Hi様から「日本モンゴル障がい児交流会」を設立されるとお聞きし、積極的に協力できないですが、参加させていただくことにしました。今年の「モンゴルキャンプ」の説明会の席上で、モンゴルの様子等少しだけ話させていただきました。

モンゴルでの特別支援教育も徐々に広がりを見せてきています。現在私は兵庫教育大学の先生方とモンゴル国立教育大学で特別支援教育専門教師を育成する「特別支援教育コース」の整備プロジェクトにかかわっています。モンゴルの熱心な親・教師の方々に背中を押されています。

今後とも「日本モンゴル障がい児交流会」がますます発展し、モンゴルの親・教師と日本との交流が進み、両国の交流・相互信頼が深まっていくことを期待しています。



キャンプで作ったフェルトの作品

虹の架け橋

元大阪府立茨木養護学校長 K.R

皆さん 今日は Ku です。昨年、5月8日から16日までモンゴルから11名の障害児関係の方をお招きしました。その時には、サーバス近畿支部の方々、養護教育の関係者の方々に本当にお世話になりました



モンゴルの方からの、「日本で障がい児の教育について研修したい」との希望をお聞きして、HiさんとSiさんと私の3人で茨木の小さな喫茶店で「本当にモンゴルに来てもらえるのか」「私たち個人で出来るのか」と話し合いました。ところが蓋を開けてみると、サーバスの方がホームステイを引き受けて下さったり、Hiさんの友人が移動の車の提供を引き受けて下さったりして、大勢の方々の力のお蔭でモンゴルの方の障がい児教育研修は成功しました。このようなエネルギーが今回の日本からモンゴル行きの交流に繋がったもので本当に嬉しいです。

昨年のモンゴル障がい児教育研修団報告集の中に、私は「虹色の架け橋」という言葉を使いました。関係者の方々が橋を架けてくださったことに感謝します。

この度、日本からモンゴルへ18名の方が行かれると聞き及んでいますが、両者の深い繋がりになると思います。どうか、モンゴルの空気を感じて、美味しいものを沢山食べて楽しんでください。土産は笑顔が一番です。

皆さん、どうか元気に行ってください。

大阪うまいもののうた

大阪にはうまいもんがいっぱいあるんやでー たこ焼き
ぎょうざ お好み焼き ぶたまんっ！
大阪にはうまいもんがいっぱいあるんやでー いか焼き
ばってら あわおこし ようおこし！
大阪にはうまいもんがいっぱいあるんやでー かに道楽
づぼらや もんじゃ焼き なんでもやねん！



キャンプで歌った大阪の歌

ご挨拶

日本サーバス会長 O.T

みなさまの活動を尊敬をもって後援させていただいております日本サービスの代表の O と申します。

昨年（2015 年）のモンゴルにおける障がい児教育関係者研修を主目的とした近畿での研修が大成功を収め、今回はそれを発展させて、名称も「日本・モンゴル障がい児交流会」と改められ、一層充実した活動が展開されるようになった事を心からお喜び申し上げます。

弱肉強食、適者生存が自然界の掟とされておりますが、人間はその自然の一部でありながらも、長い歴史の中で独自の営みを続け、全ての人の生存を尊び、保障することを「人間の文化」として創りあげてきています。この文化は自然に与えられたものではなく、世界中の関係する方々の普段の努力と献身的な営みの中で築きあげられてきているものだ理解しています。

今、世界中の人々が、効率、利益追求を第一義にした生き方を求めているように思われますが、その一方、世界の平和や人権を大切に、多様性の認識と共生の社会をつくっていくことの必要性も強く求められています。みなさま方はその大きな事業の一步を、力強く、そして楽しみながら、歩んでいらっしゃるかと確信しています。

サーバスはホームステイによる交流を通じて、善意、相互理解及び相互の寛容を深めることによって、世界平和の促進に寄与していくことをその目的としています。その目的達成のために、国内外の会員相互の親善交流の推進、国際交流の企画及び推進、海外サーバス、及び他の民間親善団体との連携協力を主な活動としております。（日本サーバス会則第 5 条、6 条）

本会の会員が貴会の目的と活動に賛同し、積極的な関わりをもっていることを会の代表者として大変嬉しく思っております。

モンゴルの草原で、参加者の笑顔と共に、「世界に一つだけの花」の歌声が、心地よく草原を吹き渡る風に乗って、大空いっぱいにはろがる様子をイメージし、ご挨拶と致します。

貴会のご盛会を祈念し、交流キャンプの成功を心からお祈りいたしております。

2016 年 6 月 26 日



キャンプでの日々

8月1日

平成28年8月1日（月）8：30 関西空港集合。モンゴルキャンプへいざ出発。

お揃いのTシャツとTシャツの柄（ゲルをデザインしたもの）と一緒に交流旗を目印に初めて会う方や、激励会で会った方などとの対面。8時過ぎには全員集合。

空港はすごい混雑。全員（総勢16人）無事出国。天気は快晴、日本は暑かった。

関西国際空港定刻出発（10：50）「あこがれのモンゴル」へ飛び立つ。

韓国の仁川空港で乗り換え、1時間40分の待ち時間の後、モンゴルへ。

17：50分ウランバートルに到着。太陽はまだ真昼間の日差し。

入国検査を済ませ空港から外へ。モンゴルへの記念すべき第一歩。

ウランバートルの景色を見て「あ～奈良の若草山みたい！ 山？ 丘？ すごい！ モンゴルや～モンゴルや～着いた、着いたねー」と歓喜の第一声。モンゴルも暑かった。

チンギスハーン空港で出迎えてくださったモンゴルの皆さん（1年前お会いした方々）との再会を喜び合い今日の宿泊所の Sharga morit・Basarhan 幼稚園へ。ここは Hg さんの子供さんが通っていた所で宿泊設備があり、夏休み中で園児がいず、私たちのウランバートルでの宿泊場所に提供して下さった。

時刻は19：40分（日本との時差は1時間。しかし、今はモンゴルはサマータイム1時間調整のため、プラマイゼロで日本時刻と同じ）。



幼稚園到着 21：10 分。まだ太陽は丘の上に顔を出したまま（日本では寝る前の時刻？）。

幼稚園ではウエルカムティーとモンゴル料理の夕食で歓迎を受け、全員完食。まだまだ外は明るく時間の感覚がおかしくなる。

食事が終わり、部屋割りも決まり就寝準備に取り掛かったのは23時過ぎ。

不安を抱えながらも明日からのモンゴルでの活動を楽しみに（沈まぬ太陽の明かりの中で）一日目が終了。園児が4～5人が寝れるようなベッドで、今回知り合ったばかりの方（もちろん女性）と二人で「おやすみなさい」でした。

T.S

8月2日

2日目の朝を **Kindergarden** で迎える。ひんやりとした澄み切った空気が心地よい。庭の芝生に出てモンゴルでの最初の朝を肌で楽しんだ。

朝食はバンシ ティ ツァイでスタート。

9:30 ウランバートルの観光に出発！ガンダン寺（ガンダンテクチェンリン僧院）⇒ザイサントルゴイ記念碑⇒スクバートル広場を訪れた。とにかく暑いこと暑いこと。これがモンゴルか？というほどの灼熱の1日だった。

ガンダン寺では25mの開眼観音像にびっくり。古い寺院も見学。ただ言葉は全く分からず視覚からの情報に頼るしかないのが残念だったが、そんな中、おたふく会のお母さんが英語による学生ガイドの説明を、私達のために日本語訳にしてくださり、とてもありがたかった。

ザイサン丘は500段の階段を登る。頂上の記念碑には大戦時のストーリーが描かれており、日本もモンゴルと戦った事に少々複雑な気持ちを覚えたが、ここからは市街地が一望



でき最高の眺め。なぜか頂上に回転遊具があり、子供たちは暑さを忘れ元気を取り戻して遊んでいた。偶然、日本からの植樹のボランティアグループの人々に出会う。いろいろな面で日本人の活躍を知り、うれしい驚きだった。

そして、スクバートル広場へ。太陽は真上、広場には日陰は全く見当たらず。正面の政府宮殿にはチンギスハーンの坐像、広場の真ん中には英雄スクバートル像があるが、見学もそこそこに、涼しさをもとめて昼食のレストランへ。

午後は買い物後、Mongolian National Song And Dance Ensemble 「TUMEN EKH」へ。モンゴルの伝統楽器、舞踊、そして、何よりも有名なホーミーを直に自分の耳で体験出来て、昼間の暑さの辛さを忘れた素晴らしい時間だった。固い椅子にちょっぴりお尻が痛かったけれど。

明日からのキャンプとモンゴルのご家族との出会いに思いを馳せながら、夜の長いウランバートルをたっぷり味わわせてもらった一日だった。



K.M

8月3日

この日はキンダーガーデンから移動し、いよいよテレルジのキャンプ地へ向かう。

- 7:00 朝食（メニュー）蒸しパン、そうめん入り
スープ、牛乳、黄桃ジュース、日本茶
- 8:00 日本グループは車2台で出発
- 10:00 チンギス・ハーン ミュージアムでモンゴル
グループと合流予定
- 9:30 チンギス・ハーン ミュージアム到着。ミュ
ージアムと展望台を見学
- 10:10 Hgさん、Niさんとミュージアム内で
合流する。おたふく会の方が民族衣装を着ての写真撮影
- 10:30 ミュージアム駐車場にはモンゴルグループが到着していて全員で合同写真を撮影
- 12:10 キャンプ地到着 モンゴル式の歓迎スタイルで馬に乗った人達がお出迎え
広場に椅子が並べられ、モンゴルのミルクティとヨーグルトのお菓子をいただく
- 12:40 ゲルの部屋割りを行い、おたふく会の方は家族単位で各1棟、交流会のメンバー
は4名で1棟、合計5棟のゲルを使わせていただく
- 12:45 憧れのゲルに入る
- 13:30 レストランでランチ（メニュー）ハヤシライス（羊肉、ジャガイモ、にんじん、ラ
イス）、野菜スープ（羊肉、ジャガイモ、わんたんの皮）、野菜サラダ（生野菜は食
べないようにと撤収された）
- ※ モンゴルグループのChさんの到着予定の18:00までフリータイムとなる。
- 18:15 開会式：日本、モンゴルそれぞれにご当地ソングやダンスの披露などで自己紹介。
日本からは子供たち一人一人に袋入りのプレゼントを渡し、その他に、『にほん -
モンゴル』 ロゴ入りTシャツと日本のお菓子や日本茶をプレゼントする。
- 19:00 レストランで夕食（メニュー）羊肉ロースト（ジャガイモ、にんじん）、
【チュカさんの差し入れ】 馬乳酒、ラクダのミルク
- 20:40 レストランまえの草原でゲーム）をする。
1. ボール運び（小ボール2個）
 2. ボール運び（サッカーボールを3人でまわす）
 3. 水運びリレー（バケツの水を手ですくって隣の人に渡す）
 4. 綱渡り など
- 21:40 ゲーム終了
- 22:00 シャワータイム
- 23:00 就寝



H.S

8月4日

夜中、「星、見に行くよ！」の声に慌てて飛び起きて、しっかりと着込んでゲルを出ました。そして、夜空を見上げると、そこに天の川が流れていました。北斗七星の他は星々としかわかりませんでした。満天の眺めに満足して、再び眠りにつきました。

朝一番はせせらぎまで散歩に出かけました。

朝食後はフェルト作りです。まず羊の毛を重ねて台を作り、その上に色のついた羊の毛で模様を描きます。次いで石鹸をすり込んで・・・という作業をしました。

私は日本料理の担当でしたので、その準備のため、ここで台所に入りました。メニューは手巻き寿司、いなり寿司、おにぎり、野菜たっぷりの味噌汁でした。水は容器から柄杓で汲んで使いました。米のとき水は容器にため、野菜を洗う時はまずその水を使い、仕上げに新しい水をくぐらしました。準備中、オーナーから我々が着いてから洗面所の水の使用量が増えているのでセーブしてほしいとの要望がありました。蛇口をひねれば水が出てくるのが当たり前という生活は何と贅沢な事かと、改めて思いました。

昼食は両国が同じテーブルを囲んで、自分で思い思いに巻き込んだお寿司等をほおばりました。その後、モンゴルのバーベキューだと聞いていたので、焼きおにぎりにしようと準備していたのですが、我々がイメージするバーベキューとは違って、大きな鍋に真っ赤に焼けた石と羊肉、ジャガイモ、人参等を入れて煮込んだ物でした。



しばしの休憩のあとコンサートが始まりました。

まず、日本が舞台に立ち、デコレーションしたうちわやベルを駆使して歌や踊りを披露しました。終了しようとした所、「北国の春」を歌って欲しいとの希望がありました。モンゴルでは有名な日本の歌なのだそうです。次いで、モンゴルの舞台が披露されました。歌、踊りに両国の文化を感じました。そして飛び入りのゲストのメッセージがありました。我々は途中参加のモンゴルのメンバーだと思っていたのですが、たまたま泊まり合わせた部外者でした。彼女はフェルト作りにも参加しており、日本ではこんなことが何気なく行われることはないと思います。

夕食後は乗馬と牛車タイムでした。昼間は暑いのでこの時間に行われたのですが、日の暮れるのが遅いからこそそのスケジュールでした。

今日のはてんこ盛りの日でした。

K.S



8月5日

夜から雨が降っていて、寒い一日の始まりでしたが、朝食時には、もう止んでいました。

おたふく会の案による作品作り開始。馬の型に、クレヨンで色塗りした紙を貼る、型抜きした紙を貼る等して作品を仕上げました。子供たちは夢中で作業をしていました。昨日仕上げたフェルト作品も一緒に並べてみんなで記念写真。



昼食後はスポーツ、先ず、昨日の3グループに分かれてロケット風船とばし。次に2グループに分かれて、小さいボールをたくさん使ってバレーボール。大きなビニールシートをみんなで持って水風船でバレーボール。最後にモンゴルチームと日本チームに分かれてバレーボールをしました。

その後、モンゴル人は着物の着付けと日本人はモンゴルの服を試着して写真撮影。

次に、見たい人は羊の解体を見ました。



夕食の前に、モンゴル料理の体験、バンシー・ボーズ・ホーショールの3種類を作りました。これは、すぐの夕食に出して貰いました。

フェアウエル(閉会式)では、Hgさんから「モンゴルと日本の違いがあるが、来てくださってありがとう」とお礼の言葉。Hiさんから、「去年はモンゴルから日本に来てもらい、今回はこのように交流キャンプを開催していただきありがとうございます。この流れをもっと広げながら交流をふかめましょう」と、お礼の言葉。そして、日本からの参加者全員から感想を言いました。

参加者全員で「しあわせなら手をたたこう」をモンゴル語・日本語で歌いました。

モンゴルからの参加者から感想の後、モンゴルの女の子の音頭で、全員でダンスをして、お休みなさいになりました。

A.K

幸せなら 手をたたこう

一. 幸せなら手をたたこう

幸せなら手をたたこう

幸せなら態度でしめそうよ

ほらみんなで手をたたこう

二. 幸せなら足ならそう

幸せなら足ならそう

幸せなら態度でしめそうよ

幸せみんなで足ならそう

三. 幸せなら肩たたこう

幸せなら肩たたこう

幸せなら態度でそうよ

ほらみんなで肩たたこう

8月6日

さわやかな朝でいいお天気でした。朝食後、荷作りを済ませて、ゲルを後に、車でテルレジの観光名所の亀石に向かって移動しました。その後、一路、ウランバートルへ。

ウランバートル市内で、買い物と昼食、ノミンデパートで自由行動。

宿舎に戻り、夕食。

その後、モンゴルの人達からプレゼントをいただき、なごりを惜しみました。

次の日の朝食を用意しておやすみなさい。

A.T

「世界に1つだけの花」

花屋の店先に並んだいろんな花を見ていた
ひとそれぞれ好みはあるけど、どれもみんなきれいだね
この中で誰が一番だなんて争うこともしないで
バケツの中、誇らしげにしゃんと胸を張っている
それなのに僕ら人間はどうしてこうも比べたがる？
一人一人違うのにその中で一番になりたいがる？
そうさ僕らは世界に1つだけの花
一人一人違う種をもつ
その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい
小さい花や大きな花、
一つとして同じものはないから ナンバーワンにならなくてもいい、
もともと特別なオンリーワン



小さい花や大きな花



一つとして



同じものは無いから



ナンバーワン



ならなくてもいい



もともと特別な



オンリーワン

私たちの愛唱歌

8月7日

今日はいよいよ日本に帰国する日です。早い方は5時前に起きだし、洗顔、荷物の準備を始めています。Hgさんが朝食用にと、パンやビスケットとジュースを持ちこんで下さいました。

朝焼けの中、マイクロバスと荷物を積み込んだワンボックスに分かれて、6時半ごろお世話になったバサールハーン幼稚園を後にしました。チンギスハーン空港までは約36km、早朝なので車も少なく、1時間あまりで空港に到着しました。ChさんとHgさんの見送りを受け、チェックインしたゲート前で簡単な朝食を済ませ、残ったモンゴル紙幣で最後の買い物をする人もありました。おたふく会の方が預けた手荷物が行方不明になるトラブルがありましたが、無事、関空で受け取ることができました。



モンゴルをほぼ定刻に離陸、モンゴル航空は古い機体を使っているのでビデオがありません。読み残した文庫を読んでいると機内食が配られます。モンゴルの脂濃い肉に懲りたのでチキンにしましたが、あまり美味しくありません。

インチョン空港にはほぼ定刻に到着しました。広い空港なので乗り継ぎに少し戸惑います。往きは乗り継ぎ時間1時間40分でしたが、今回は1時間20分です。しかし、往きで



経験したので、乗り継ぎカウンターで手続きを済ませ、なんとか搭乗時間に間に合わせました。少し離陸が遅れ、冷房も効かず。暑い機内でした。軽食が配られましたが、食欲がなく持ち帰りました。関空には約20分遅れで到着。土産物などで荷物が増えた方が多く、またの再会を期してそれぞれ家路に着きました。

帰国後4日経った今も胃腸の状態不良が続いています。2年前の訪蒙の経験から水、生野菜には十分注意を払った積りですが、モンゴルの水(硬水)や食物に馴染めず残念です。しかし、大草原の中でモンゴルの人たちと乗馬やフエルト作り、ゲームなどを通じて、楽しく交流できたことは、忘れられない思い出として残るでしょう。

H. E

参加者の感想

大阪 LD 親の会「おたふく会」

皆さまに感謝！

今回のモンゴルへの旅は、親子共々本当に楽しいものとなりました。モンゴルの雄大な草原や山々の連なり、馬や牛ののんびりした様子、これから発展がますます楽しみな首都ウランバートルの街並み、歴史を感じさせる寺院や民族音楽・舞踊、居心地の良いゲルでの生活…、どれも大変印象的でした。そして何よりもモンゴルの子ども達や親切な方々とのふれ合いはかけがえのない思い出となりました。息子も、帰国してから数日経った今でも「先週 の今頃はモンゴルで楽しんでいたよな…」となつかしんでいます。またモンゴルを訪れてみたいと。

素敵なモンゴルと、Hg さんやお世話になった皆さんに心から感謝です。

母親と中学生の息子



母親と高校生の娘

モンゴルに行って

高校生

私はモンゴルに行くギリギリまで自分が不安定だった事もあり、本当に行けるのか行ってから大丈夫なのか、かなり不安だったのですが、本当に楽しかったです。一緒に行ったメンバーや現地の子供たちとも仲良くなれて、良い思い出を作ることが出来ました。予定がなかなか立たず、立ってもすぐ変わる環境だったので、先が見通せず少し不安に思ったりもしましたが、それでも今やっていることが楽しかったので、そんなに気になりませんでした。

本当にあの高い空と広い草原が特に印象的です。物凄い星空や、馬や牛が道路を普通に塞いでいたり、初めて見る花が咲いていたり、とにかく見る事やる事初めてだらけでしたが、みんなずっと受け入れて楽しんでいた、大自然とそこで育ってきた人たちって凄いなあと思いました。

また行きたいです。日本にも来て欲しいです。

バイラルラー

母親

なかなか思うようにならない日常と、そこから感じているであろう娘の辛さが、少しでも変わるきっかけになる事を期待して参加しました。

モンゴルでは、青い空、広い草原、時に道を横切る牛など、日本とは違う景色にワクワク感が高まりました。特に今にも降ってきそうな満天の星空は、ただそこにあるだけでい

いという雄大さがありました。

大自然とゆったりとしたモンゴル時間で過ごす中、身体や気持ちの疲れを整える時間も持つことができ、アップダウンの激しかった娘も、一息つく事でみんなの中に戻っていくことができました。待つことや温かく迎え入れてくれる人がいることの大切さやありがたさを実感した旅となりました。現地でのいろいろな活動や交流も、目を輝かせて取り組んでいて、帰国してからも何度も楽しかったと繰り返し話してくれています。



個人ではできない貴重な経験でした。ありがとうございました。多くの方々に大変お世話になり、感謝申し上げます。

何もかもが素晴らしい 家族4人（両親と小学生の息子2人）

父親

行って良かった。ほとんど手つかずの自然。日本に溢れている便利なものはあまりないけ



れど、澄んだ空気と広い草原、みどりの山、風、土の強い香り、プラネタリウムのような星空、草の香りがぶわっと立つ雨上がりの朝、どれをとっても新鮮で感動的だった。大自然と共に生活できて、改めて自分たちも地球の一部なのだと感じた。

また、羊の解体にも立ち会わせてもらい、人間は他の命をいただいて生きている、だから人生を大事に生きなアカン、と思った。

また明るく大らかに暮らされているモンゴルの方々と過ごせて、とても楽しかった。障害の有無を超えて、楽しく過ごさせていただいた。世界も今回のキャンプのように、平和になればいいと思う。

その為に、まず自分にできることをやる。いいことをやる。

母親

モンゴルに着いて意外だったのは、違和感が無いな～と言う事でした。いつも海外に行くのと、空港に着いたとたんに異国に来たな～とを感じるのですが、その違和感が全くなかったのです。顔立ちが似ている人達、話し方も穏やかで笑いかけると返ってくるはにかんだ笑顔、車は日本車で、カーステレオから流れてくる音楽はまるで演歌でした。

案内して頂いた幼稚園で、次男は門を開けてもらって一番に迎えてくれた女性に飛びつきました。その方は両手を開いて息子を迎えて下さり、まるで我が子のように抱きしめてくださいました。息子はそのままずっと抱かれニコニコしていました。私も、その方たちと全く

言葉が通じないのにも関わらず、早速冗談を言い合い、とてもアットホームな空気を感じました。ここから一週間お世話になったモンゴルの方たちは皆同じで、親切にして下さり、物作りやスポーツ、観光に買い物と、終始「積極的に楽しませてあげよう！」という心遣いを感じました。

特に今回の旅行責任者の Hg さんには、車の中や夜中のキッチンで歴史や社会状況など沢山のお話しをして頂き、一回の旅行で得られたとは思えないぐらい、モンゴルについての理解を深めることが出来たと思います。家族の事なども話し合いまるで姉妹の様に親しみを感じました。

子供たちはお互い言葉が無くても楽しそうにはしゃぎまわり、時には喧嘩を始めました。

そしてお気に入りの相手を見つけ、いつも一緒にいました。モンゴルの広い空とただ続く草むらの上では、障害の意味もほとんど無くなり、日本ではとてもさせてもらえない貴重な経験も沢山しました。



重度の知的障害がある次男は、興奮すると大声を出してしまったり、ヘルメットや長靴を嫌がるため、日本で馬に乗れる機会はほとんどないのですが、モンゴルではキャンプ場の方が、「今なら馬が落ち着いているから大声を出しても大丈夫。」とおっしゃって、なんと一人で馬に乗ることが出来ました。押さえつけられることなく自由にさせていただき、息子は穏やかな顔で馬のたてがみを撫でて感触を楽しんだり、空を見上げて風を感じたりしているようでした。

長男は夜は満天の星を観察し、昼間はあらゆるスポーツに挑戦し、苦手なはずの運動に力いっぱい挑んで、少しの時間で目に見えて成長したのには驚きました。細かい事が気になってしまう彼には、しんどい事も沢山あったと思いますが、ご飯も好き嫌いを言わず全て食べ、弟の面倒をまるで親の様に見るようにもなりました。これは帰国後も続き、着替えや送り迎えなども今まで以上に愛情込めてやってくれています。

そして、羊の解体。長い間の暮らしで培われた伝統技術を見せて頂きました。鳴いている羊を連れてくるところから始まったので、長男には刺激が強いだろうと心配する人もいましたが、私たちの「たべもの」を知る貴重な機会だと思ったので全部見せることにしました。大人の私たちにはとても興味深く、残酷さや悲しさ、怖さは全く感じず、その見事な手際にただただ感心しました。しばらくしてから息子に感想を聞くと、「普段から食べ物に命であるという事は意識している。だから一度目の前で見たからと言って感動したりするのは違うと思う。」などと彼なりに普段から命について考えている事が分かりました。

それでも帰国後、一番変わったことは何かと言う話になった時には「命について食べ物についての考え」と言っていたので、やはり目の前で見ることは気持ちを揺さぶり、意義のあるものになったのだと思います。

このように何もかも素晴らしいモンゴル旅行でしたが、Hg さんと話している間様々な課

題も耳にしました。社会主義と自由市場を行ったり来たり、良い事もあり、混乱もあり、差も生まれ、モンゴルは今歴史の激流の真ただ中にいるようです。ウランバートルの中心では高層ビルの建築ラッシュで、郊外では発電所や鉱山が煙をあげています。子供たちの教育も大幅に変わり、新しい価値観が芽生えてきています。一方では大きな貧富の差が生まれ、先進国に様々な資源が狙われています。そんな中、日本とモンゴルが手を取り合い、お互いの文化を伝えあい交流することはとても意味深く、また今が好機だとも感じます。

小さいことですが個人個人の付き合いを大切に続け、自分の周りの人達にモンゴルでの体験を伝えることで、日本人とモンゴル人が実際の距離を超えてもっと身近に感じ合えるようにする事が、参加させていただいた恩返しになればと考えています。

最後になりますが旅行前、旅行中サポートしてくださった日本の大人の方たち、モンゴルの方たち、キャンプ場の方たち、皆様に心からお礼申し上げます。ここには書ききれない沢山の素晴らしい体験をし、ご親切に触れました。そのどれもが私たちにとってかけがえのない宝物となりました。

貴重な機会を与えて頂きどうもありがとうございました！！

小学生の息子

モンゴルはすごく広いし、空気が乾燥していて気持ちよかったです。それに清潔だし蚊もいないし、住んでいる人たちもすごく優しくかったです。キャンプにブランコがありました、そこに弟を乗せたらすごく喜んでいました。押している僕も楽しかったです。モンゴルで一番おいしかったのはお肉でした。スープに入っていたりしました。脂の部分も入っていました。美味しかったです。



エルデネのチンギスハーンの像がすごく大きかったです。そのチンギスハーンの靴の大きさにびっくりしました。

もう一つ驚いたことは、トイレの紙をごみ箱に捨てる事です。一度忘れかけてしまいました。

キャンプで出会った子に気に入られて、毎日ゲルの中に遊びに来るようになりました。一緒に遊ぶととても楽しかったです。

一番印象に残ったことは星を見た事です。夜に起きて空を見たら、すごい数の星が見えました。とてもきれいでした。

モンゴルって凄いいところだと思いました。

日本モンゴル障がい児交流会会員

モンゴル交流感想文

A.K & T

昨年、モンゴルと日本の交流会のお手伝いをしました。MgさんとChさんに我が家に泊まっていただきました。その後、Hgさんや妹のSrさんとも交流しました。今回は、Hiさんに誘われて、夫と一緒に参加し、おたふく会の人達とは事前交流会でお会いしました。

当日は、仁川空港乗換を何とかクリアして、ウランバートルに着く直前、飛行機の窓から広大な緑の大地を見ました。空港でHgさんとChさんを見た時、ほっとしました。

モンゴルのメンバーから暖かいおもてなしを受けてのスタートとなりました。子供たちは、ゲームなどを通じてだんだん仲良くなっていました。作品を作るときみんなが夢中になり、時間が足りないくらいでした。日本料理は、Kaさん・Soさん・Taさん・Hoさんたちが、おにぎり、手巻き寿司、いなりずし、味噌汁と盛りだくさん用意してくださいました。美味しくて、みなさんおかわりをしていました。モンゴル料理は、バンシ・ボーズ・ホーション作りをしました。昼寝をしたりしてのんびりと過ごすことも出来ました。

モンゴルの五畜とは、ラクダ・羊・馬・牛・山羊と言われています。今回は、ラクダと馬と牛のミルクを飲みました。ラクダのミルクは、飲みやすく、馬乳酒は、ちょっと酸っぱい味でした。牛乳は、とても濃くおいしかったです。

毎日、肉中心の食事で、体中から肉のにおいを感じました。食事も少なめにしていましたが、途中から、胃が疲れてしまい、調子が悪くなりました。

Hgさんからラクダのミルクを忘れていたよと、メールがありました。次回は、羊と山羊のミルクを用意してくださるそうです。楽しみにしています。



モンゴル時間

K.M

サーバスという団体のこともよく知らず、障がい児さんのことにもご縁の薄い私でしたが、単純に「モンゴルって行ってみたいな～」と思い、そして8月実現しました。

初対面に近い参加者の皆さんとの交流、出発までの様々な出来事、自分の体力への不安などを抱えての旅でしたが、いっぱい思い出を心に詰め無事に旅を終えました。と一緒に過ごした日本・モンゴルの皆さんに深く感謝しています。ありがとうございました。

モンゴルには「モンゴル時間」というものがありました。事前の予定は立たない、予定はたびたび直前に変更される、内容はとてもアバウト、そしてそれがモンゴルの常識だという。今回の企画進行の任を引き受けてくださった日本側のHiさんとモンゴル側

の Hg さんにとっては、この問題は胃の痛くなるような課題だったことでしょう。本当



にご苦労様でした。ただ、責任のない私にとっては、現地でのモンゴル時間はむしろ自然な体感だったという印象です。

「〇〇が終わったら△△をしましょう」という感じです。モンゴルの草原は可愛らしい様々な野草が咲き乱れていました。そしてその間には牛さんの立派なうんちが今昔混じって鎮座ましています。日が昇れば活動が始まり、夜は明るさが残る限り活動が続きました。(乗馬プログラムは夜9時から始まりました) ゲルの周囲では牛や馬、犬が自由に暮らして

いて、時々牛がゲルの中に挨拶に来ました。そんな中では人の頭で考えた時間を優先するのではなく、自然と人で作り上げる暮らしのリズム「モンゴル時間」が共存への知恵なのかもしれません。

4日目のランチタイムにレストランの厨房をお借りして日本食を作りました。慣れない場での作業は時間がかかりました。厨房の方にとっては他の方へのランチの準備などがあり、きつとご迷惑をかけたことだと思いますが、何も言わず私達の様子をニコニコと見守ってくださっていて、私達が終わると、さつとご自分の調理にかかっていたのかと思います。本当に感謝&感謝でした。

モンゴル時間をそのまま日本の暮らしに持ち込むわけにはいきませんが、こんな世界があることを知り、その味を体験することで、ほんの少しばかり自分の枠が広がったように思います。モンゴル時間ありがとう！

印象に残っていること

K.S

両国の参加者との出会い、満天の夜空、乗馬体験他すべてが印象に残る7日間でしたが、ベスト1は解体です。日本では肉といえばスーパーに並んでいるパックで

す。草をはむ家畜たちを見る機会もなく、とさつの現場に立ち会うなんて考えられないことです。目の前でナイフで裂かれ心臓をつかみ出されて死んでいく姿を見ました。それは一番負担をかけない命の絶ち方なのだそうです。その後解体作業がなされました。たぶんいつもは厨房で料理を作っているかただと思う



のですが、彼は正装と思われる服をまとっていました。補助作業しているのはモンゴルの参加者でした。男は誰でもできるとおっしゃっていました。私たちは命をいただいて命を保っていることを心に刻んで帰ってきました。

いただいた命に感謝しつつ日々を過ごしていきたいと思います。

夢叶う

T.S

2015年5月「モンゴル障がい児教育研修」の方々が私が勤務している障がい者福祉施設の見学で訪問されました。たまたまその時、見学のご案内をした私が「モンゴルは、私が行ってみたい憧れの国です」と発した一言が縁で今回「日本・モンゴルの障がい児家族交流キャンプ」へ参加することになりました。「夢叶う」でした。



設の見学で訪問されました。たまたまその時、見学のご案内をした私が「モンゴルは、私が行ってみたい憧れの国です」と発した一言が縁で今回「日本・モンゴルの障がい児家族交流キャンプ」へ参加することになりました。「夢叶う」でした。

日本の参加者16人とモンゴルの参加者（3日間での延べ100人。少し多めにカウントしたかな？）とたくさんの人達と知り合いました。

言葉は日本語しか話せない私でしたが、通訳さんを頼りに、ジェスチャーと表情で気持ちは通じコミュニケーションも十分にとれました。

ゲーム大会では、モンゴルの子供さんたちの親（特にお母さん）のパワーを感じました。子供たちを楽しませるためのゲーム大会だったはずが、いつしか大人が必死になり、真剣に対戦していました。また双方料理自慢も楽しかったです。「モンゴルの自慢は肉、どうだ量も味も負けないぞ〜」（この食欲がモンゴルのお母さんたちのパワーの源。）日本は、おいしいお米、みそ汁「あ〜日本の味や〜ん」とジャパニーズフーズの美味しさを再認識しました。

美しい大自然とおおらかで明るいモンゴルの皆さんの「おもてなし」の優しい気持ちとパワーを見て「これがモンゴルの人達なんだ」と感じました。

最終日は早朝から空港まで見送りに来てくださってありがとうございました。

「また来てね」「また来ます」の言葉を残して別れました。

「モンゴルに行きたい」の夢は叶いました。「また来ます」は次の夢かな？

今回は言葉は話せなくても交流はできましたが、話せたらもっと深く、障がい児教育支援、悩みの相談もできたかも？ 次の夢を叶えるために 自分の反省として言葉の勉強を始めようかなと思い始めました。

本当に楽しかった夢が叶った「日本・モンゴルの障がい児家族交流キャンプ」でした。

日本サーバス近畿支部関係者のみなさまありがとうございました。日本サーバス近畿支部支部長 Hi さん、お誘いいただき本当に感謝しています。

これからもよろしくお願いします。

貴重な体験

H.S

モンゴルは以前から行ってみたい国であった。2月の初めに『SERVAS モンゴル行き』のメールを受信し、その趣旨は、日本とモンゴルの障がい児家族がモンゴルでのキャンプを通じて交流を図る、というものであった。内容はよくわからなかったが、普通に行くツアーより、よりモンゴルの事がわかるのではないかと思い申し込みをした。

このツアーに参加し、ふたつのものに出会った。ふたつとも今まで知らなかった新しい世

界であった。ひとつは障がいのある子供と家族の姿。もうひとつはモンゴルという国そのものの。



日本からこのキャンプに参加したのは、大阪LD親の会（おたふく会）に属する3家族、8名と活動を支援する8名の大人の計16名。長く障がいのある子供について活動している方や、看護師、養護教師などもいた。門外漢は私一人かも知れない。

モンゴルからは約20名程の家族と支援者の参加があった。趣旨をよく理解していない私は、あまりお役に立てなかったと思う。

しかし、ここで目にした子供たちとご家族はたいへん明るく、前向きで感動的であった。キャンプという共同体験を通して、障がいのある子供とはどうゆうことなのか少し理解できたように思う。困難があっても明るく、前向きな姿は、私に生きていく勇気を与えてくれた。

モンゴルについて語るには6泊7日の滞在では無理がある。モンゴルについての知識がなかった私は、少しでも助けになればと、司馬遼太郎著『街道をゆく 5 モンゴル紀行』を旅の前から読み始め、旅の6日目に読み終えた。この旅の時期は、1973年8月21日から31日まで。今から43年も前である。モンゴルへの入国ルートは違うものの、大草原や満天の星空などは今とさほど変わらないのではないかと思える。一般的なイメージ通り、見渡す限りの草原とそこに吹く風、ゲルで生活し、満天の星空を眺める。これができたので私は満足である。彼らの旅は南ゴビへと続く。

モンゴルでの滞在先のもう一つはウランバートル近郊のキンダーガーデンであった。ここでは毎食の食事をモンゴルのキャンプ参加のお母さんたちが担当して下さり、毎回工夫をこらしたモンゴル料理がテーブルに並んだ。肉食中心のモンゴル料理が必ずしも日本人の口に合わなかったことは残念であった。ここを宿泊場所を選んでくれたのは、今回のモンゴル側のまとめ役のHgさんで、彼女の役割がこのツアー全体のキーポイントであった。キンダーガーデンの宿泊という、他では考えられないような体験も、楽しく忘れられないものとなった。

多くの方たちと出会い、今まで知らなかった世界に目を向けることができるようになった。そして、この目で見たモンゴルという国。これを機会に様々な面でもモンゴルという国について関心を持ちウォッチしていきたいと思う。

モンゴルキャンプに参加して

H. E

帰国後、モンゴル(ウランバートル)の気温は20℃前後で経緯し、8月1日にチンギスハーン空港に降り立った時の暑さからは考えられません。お盆の残暑厳しき中、草原を吹き渡るさわやかな風を思い出しております。

2年前に比べるとウランバートルにも変化が見られます。まだ建築中のものもあります。新しいビル(マンションと思わしきもの)が増えています。市街を一望できるザイサン・トルゴイに登ると、市街地周辺の開発が進んでいるのが良く分かりました。日本人の植林ボランティアにも会いましたが、建築材の盗伐も行われているようです。

今回のキャンプ地はテレルジ国立公園の亀岩の少し北、丘陵に囲まれた、少し小高い草原にあります。20個ほどのゲルと食事棟およびトイレ、シャワーの建屋があります。日本人16人は5個のゲルに分宿しました。食事は3食ともキャンプ地のスタッフが作るモンゴル料理です。味はまずまずながら脂濃いものも多く、生野菜、生水には用心しましたが、キャンプ3日目で胃腸の状態が最悪となりました。トイレ、シャワーも時間制限があり、特に夜中の用便には辛い思いをしました。



日本の4倍の広さの国土、1/40の人口を有するモンゴル国の人との交流は、変な計算ですが、160倍(4×40)の価値?があるのではと思います。キャンプでの生活、いろいろなイベントを通じて、お互いの文化を理解し、子供たちにはまたと得られない経験になったと思います。特に広い草原での乗馬、Chさんの準備した数々のゲーム、馬の絵のペインティングで子供たちの生き生きと熱中する姿が忘れられません。

次回、モンゴルの子供たちを日本に迎えることができれば、楽しい思い出となる経験をさせてあげたいと思います。

立場に身を置く

H.T

私たちがキャンプを行ったのは美しい自然の中のテレルジ国立公園です。周囲には小高い草原があり、牛、馬、羊、山羊が戯れていて、夜は地上まで星が輝いていました。そんな素敵な所で、私たちは多くの交流プログラムを楽しみました。フリータイムもたっぷりあり、豊かな景色を見ているだけで幸せでした。大人の私たちは言葉の問題で十分話し合う事が出来ませんが、子供たちはそんな事に関係なく、心を通じ合わせ、非常に楽しく遊んでいました。人が理解しあうって理屈ではない、こうして共にいる事だととても感動的でした。最後の閉会式では、両国の参加者が皆「今後も交流を続けていこう」と感想を言い合いました。



モンゴルの豊かな自然、モンゴルの人たちの深い温かさを心に満たした素晴らしい交流キャンプでした。

キャンプの骨子、どの位の日程でどんな事をするか等は、Hgさん、おたふく会の方、Hiで話し合って、昨年決めました。けれども、このキャンプを実現するまでにはいろんな事がありました。その第1はモンゴルと日本の実行に際しての考え方の違いから起こるもので

した。参加者から、「スケジュールはどうなっていますか。」「よくわからないので不安です」とのメールをよくもらいました。Hgさんにそういうことをお聞きしても、「We do our best. Don't worry(自分たちは出来る最大の事をするから心配しないで!)」と返事が返ってくるのみで、具体的な事がないので、参加者の質問に答える事が出来ませんでした。キャンプのスケジュールが送られて来たのは、7月中ごろでした。日本だったら、スケジュールの最終確認も終わっている頃です。そして、8月1日に出発というのに、7月30日でも、まだ、「どんなシーツを持ってきて欲しいか」とのメールのやり取りが続いていました。

私はモンゴルと日本の参加者との間で気をもむ事が多々あり、正直、いやになる時もありましたが、その度毎に私に勇気を与えてくれたのは、Hgさんの包容力と、豊かな幸せな未来を子供たちという熱い想いでした。

モンゴルに着くと、Hgさんが、「日本では何事もきちんとスケジュールを立てて、その通りに実行する。でも、モンゴルではそういうようにする習慣がない。モンゴルは遊牧で生活をしてきた。朝起きて、今日の天気はどうか、動物の調子はどうかを確認し、それに基づいてその日の予定を立てる。それがモンゴルの考え方の根本にある。」と言われました。キャンププログラムが日本に送られてきた時、乗馬が夕食後と予定されていました。それを見た途端、疲れた夕食後より、夕食までにと思いましたが、モンゴルに来て、日中の暑い時より、夕食後が良い事がわかりました。そんな体験も重ね合わせて、Hgさんが言われる事が納得できました。私だけでなく、キャンプ参加全員がモンゴルの考え方を納得しました。豊かな自然の中での今回の体験は、時間に追われている私たちの生活スタイルを考える契機ともなりました。

「理解とは、相手の立場に身を置いて始めて出来るもの」を学んだ事が、今回の大きな教訓でした。ともに過ごした楽しい日々の思い出と共に、この学びも大切に、今後の人生を歩んでいきたいと思っています。



終わりに

素敵な人々、豊かな自然に囲まれた楽しい楽しいキャンプでした。初めて目にした事、経験した事も沢山ありました。この経験はいつまでも私たちの心に温かい想いを満たしてくれるでしょう。ご協力頂いたすべてに感謝します。

次は、モンゴルの方に日本に来て頂きたいです。その時には、私たちも心を込めて精一杯のおもてなしをして、日本とモンゴルの絆をより深めていきたいと思っています。そして、私たちの大好きな歌「世界に1つだけの花」のように、それぞれがかけがえのない存在であることを認めあえるような未来を、皆で力を合わせて作っていききたいと思っています。

ほんとにホントに あ・り・が・と・う ！！

参加者一同



ウランバートル「ザイサントルコイ」にて



編集発行 日本モンゴル障がい児交流会
日本サーバス近畿支部
発行日 2016 年 9 月吉日